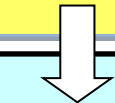


研究主任だより

福山市立曙小学校
2020年（令和2年）3月

- ①知識・技能を高める課題
- ②子どもが主体性をもって取り組める課題
- ③アウトプット

の3つを基本にしていきたいと思います。



例えば

- ・漢字ドリルか計算ドリル（知識・技能）
- ・チャレンジ（主体性をもって取り組む）
- ・アウトプット ・音読（時期によって）

①知識・技能を高める課題について

- 漢字・計算のドリルやプリントを活用した学習
- 子どもがやってくるプリントを選択してする学習

②子どもが主体性をもって取り組める課題について

- 単元を貫く課題について情報を集めている。
- 単元のゴールの活動に向けての準備。
- テストの日をあらかじめ伝え、そこに向けて自分で学習を進める。
- 自分でメニューを決めて、それに取り組む

など

③アウトプット

- その日の学習内容（考えたことや分かったことなど）を説明
- ※朝の会でスピーチ、帰りの会、授業の最初などで1～2人あてて聞いてみるなどしてどんな風に伝えているのか確認すると、上手に伝えている人の聞き方を見本にできるのでいいかも。

新学習指導要領の全面实施になります。それに合わせて、育成を目指す資質・能力が明確化され、それに合わせて学校現場でも変化が求められています。家庭学習もその1つです。育成を目指す資質・能力に合った形の家庭学習ができるように枠を変えてあげないと子どもたちにその資質・能力が身に付きません。そこで、本年度はこのような形で実施していこうと思います。

多様な考え、よりよい考えを構築しようとする主体的に学習に向かう子どもを育成していくうえで、知識・技能は必要な要素の1つだから、ドリル・プリント学習にも子どもたちは取り組むという考え方で行います。

主体的に学習に取り組む態度とは①粘り強く取り組むこと②自己の学びを調整しながら取り組むことで見取ると示されたことから、これらの力を育成するためにこういった家庭学習に取り組むという考え方で行います。

単元の学習内容と家庭学習を関連させるなどして、学びたいと思う子どもがどんどん自分で学びを進めていける環境を作ることが大切です。

いきなり自分でメニューを決めてするというのはなかなか難しいところがあると思うので、その場合、別紙のメニューの中から選ばせるというやり方から始めてみてください。

脳科学の研究でも記憶するために効果的な方法は人に説明することだと証明されています。合わせて、相手に言葉で伝える力（表現力）を磨くという考え方で行います。

「子どもに任せると差ができる」と思われた先生方もたくさんいらっしゃると思います。しかし、こういった学習の仕方ができる子どもを育成することが求められているのだから、今まで（宿題とはこうだという固定観念）のやり方を変えないとそのような力はつきません。「どんな子どもを育成するのか」という視点で考えていきましょう。